

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
eigokyoumu@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>この授業科目の包括的目標などは学修要覧に記されている。以下はそこから抜粋したもの。</p> <p>「英語演習クラスは英語必修科目の延長線上にある科目で、学生が批判的思考と自律的学習の姿勢を更に伸ばし、アカデミックな英語を習得する手助けになるよう開講されている」</p> <p>私のクラスは、大学1, 2年までに学んだ基礎知識を応用して、専門課程での英文講読に対応できるスキルを習得することを主題とする。達成目標は、様々な段落構成を持つ英文の論理展開に習熟して、正確な大意把握と批判的な読み方ができることである。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>(要注意)</p> <p>Academic Spoken English I, II</p> <p>Academic Written English I, II</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】

Outlook on Science and Technology 「構造で読む自然科学エッセイ」

石谷由美子、Suzanne Embury (南雲堂)

序言に「科学が中心ですが、内容は社会問題や社会的背景と結びついたものが多いので、科学専門の学生以外にも楽しんでもらえると思います」とある。

<目次の例>

Reasons/Conclusions, Analysis, Controversy, Comparison/Contrast, Classification, Chronological Order.

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

総合的な読解力を高めるために「文章構造の理解」と「文脈の把握」を上達させることを直接的な目的とする精読講座である。収録英文は段落構成が明確であり、「エッセイ・パターン」を学び「論理的展開」をつかむことも重視する。テキストは14課構成で、1回の授業で1課を扱う予定。各課は4頁の構成で、(1)段落構成の概要説明(2)約4~500語の英文(レベルは中級程度)(3)練習問題(4)約300語の英文から成る。

(b) 授業の進め方：

授業では1,2年次までに習った基礎的知識をテキストの英文に応用して、段落ごとの内容をつかんでいく。時にはじっくりと内容を考えながら難しい英文に取り組むこともある精読演習。毎回、まず段落構成を図解でイメージ化して、次に長めの英文を学生との質疑応答形式で読み解き、残りの時間を練習問題にあてる。上記の(4)は宿題とする。

(c) 授業時間外の学習(予習・復習等)について

(復習)テキスト4頁目にある短めの英文の課題は、学んだ段落構成や論理展開を自分の力で応用して、大まかな内容をフローチャートに書き込むこと。次回の最初に答え合わせをする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法 下記の(1)を中心とした総合的評価をする。

- (1) 期末試験(要注意:受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をすることがある)。
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方・レポートの提出。
- (4) 臨時の小テストや、中間テストをする可能性もある。

評価基準

大学作成の以下の基準に基づく。

100~90点は秀、89~80点は優、79~70点は良、69~60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前に予約を取ること。

【学生へのメッセージ】

- 1．英語に触れるひとときを生活の中に組み込むことがポイント。
- 2．実用的な音声英語の自習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧め。

【その他】